

## タイ出張に際しての写真バンコク出張報告（平成 27 年 8 月 17～20 日）概要

### [概要]

- ・北陸から大学教員、小学教員等を含む 6 人のミッションを平成 27 年 8 月 17～20 日にかけて派遣し、日タイの学校間交流に関し、バンコクに所在するチュラロンコーン大学デモンストレーション校（附属小中学校）、Kochapuak Anusorn 校を視察するとともに、ユネスコ・バンコク事務所、チュラロンコーン大学と意見交換した。
- ・17 日、18 日とバンコクで爆弾テロがあり、18 日はバンコク市内の学校が休校になったが、チュラロンコーン大学の尽力により、当初予定していた 2 つの学校を 19 日に視察することができ、当初目的は達成できた。

### 出張者（6 名）

鈴木克徳 Mr. Katsunori Suzuki 金沢大学環境保全センター  
加藤隆弘 Mr. Takahiro Kato 金沢大学学校教育学系  
出蔵直美 Ms. Naomi Degura 福井県坂井市立鳴鹿小学校長  
山岸朋子 Ms. Tomoko Yamagishi 富山県富山市立寒江小学校教諭  
田口 優 Mr. Yu Taguchi 石川県七尾市立小丸山小学校教諭  
小竹三恵子 Ms. Mieko Kotake ふくいユネスコ協会副会長

### 日程

8 月 18 日(火)	9:20～9:40	JSPS バンコク事務所訪問
	10:00～12:15	UNESCO バンコク事務所との意見交換
	14:30～16:00	チュラロンコーン大学との意見交換
	18:30～	JSPS バンコク事務所、ユネスコ・バンコク事務所、チュラロンコーン大学との夕食会
8 月 19 日(水)	9:30～12:30	Kochapuak Anusorn School (Eco-school)到着 Kochapuak Anusorn School の環境教育・ESD 視察 教室での授業視察 今後の連携協力に関する意見交換 昼食
	13:30～16:30	チュラロンコーン大学到着 デモンストレーション校の環境教育・ESD 視察 教室での授業視察 今後の連携協力に関する意見交換

### 視察の概要

8 月 18 日（火）

1. （独）日本学術振興会（JSPS）バンコク研究連絡センター表敬訪問

JSPS バンコク研究連絡センターを訪問し、表敬を行うとともに、センターの視察を行い、

また、センターのパンフレットを入手した。

## 2. UNESCO バンコク事務所 (10:00~12:15)

- ・当方から持参資料に基づき、日本及び北陸における ESD とユネスコスクールの状況につき説明。
- ・ユネスコ・バンコク事務所から ESD に関するスライドに基づきアジア太平洋地域での ESD 活動につき説明。
  - ・ SANDWATCH をはじめとする ESD Teaching and Learning Resources Project
  - ・ UNertia : 啓発プロジェクト
  - ・ 世界市民教育 (Global Citizenship Education)
  - ・ Foresight : 将来シナリオを考慮した再教育
  - ・ Conflict/Disaster Risk Reducation (C/DRR)
- ・その後の意見交換の概要は以下の通り。
  - ・ユネスコ・バンコク事務所はアジア太平洋地域の 46 か国、2 準地域を担当。
  - ・ユネスコ・バンコク事務所で ESD を総括する三浦うしおさんは、バンコク事務所には 3 年前に着任。以前は中南米・カリブ事務所で ESD を担当。
  - ・ユネスコ・バンコク事務所からは日本の詳細な情報が得られたことに感謝の意を表明。今後、金沢大学をはじめとする日本の大学との連携を強化したい意向。
  - ・具体的な協力案件としては、個別具体的な国・または国内地域の教員に対する ESD 実践支援がユネスコ・バンコク事務所としての関心事。目に見える成果を挙げられる案件として、金沢大学との協働を希望。

## 3. チュラロンコーン大学

- ・ ESD 研究開発センター所長のアタポン准教授 (Dr. Athapol Anunthavorasakul,) 等と今後のスケジュール等に関し意見交換。

8月19日(水)

## 4. Kochapuek Anusorn 校

- ・校長による学校のエコスクール活動の説明。
  - ・生徒数 280 人
  - ・地区を色分けしてそれぞれのエコ活動を推進。
  - ・ Love the World, Save the Students
  - ・科学プロジェクト (butterfly garden project)
  - ・ Recycle Bank プロジェクト (各生徒の口座を創り、ポイントを貯金していく。)紙切れにいたる紙の徹底したリサイクル  
スイカを活用した EM 菌生育によるコンポストイング
- ・その後視察 (写真参照)
  - ・生徒による Science Exhibition (科学博) 視察
  - ・リサイクルバンク活動視察
  - ・蝶園、植物園視察

- ・その後今後の交流可能性につき意見交換。  
日本側は、Kochapuek Anusorn 校の活動の視察結果を踏まえ、どのような交流が可能か検討し、後日返答。およそ1か月の期間をいただきたい。
- ・エコスクールとしての活動は秀逸。他方、チュラロンコーン大学と比べると英語ができる教員の割合は低い。

##### 5. チャラロンコーン大学デモンストレーション小学校（附属小学校）

#### Demonstration Elementary School, Faculty of Education, Chulalongkorn University

- ・簡単な説明を受けた後、授業風景を視察。また、植物園を視察。
  - ・1年生の「海洋」に関する学び
  - ・2年生による昼と夜の絵（一度記憶したもののイメージの図化）
  - ・6年生による科学の授業（池の水の観察・測定（水温、pH、濁度等））
  - ・2年生による音楽の授業
  - ・植物園
  - ・特別クラスでの英語の授業
- ・視察後、今後の学校間の連携・協力の可能性につき意見交換。
  - ・日本側からは、アートマイル、ライスプロジェクトの可能性につき打診。
  - ・寒江小学校から稲作を通じた授業のプレゼンを行った。タイでも稲作の学習を行っているとの説明があった。
  - ・絵画等の美術に関連しては、タイ側に受け入れる十分な余地と意欲があることが表明された。
  - ・現在附属小学校は、神戸市とバンコク博物館とで交互に、2年ごとに環境教育に関する児童生徒の絵画の展示会を行っている。2014年はタイで展示を行った。
  - ・6年生は「雨と森」がテーマ。自然や環境がトピックになっている。
  - ・附属小学校でも Recycling Bank Project を実施。主な狙いは以下の通り。
    - ・環境問題に関する人々の意識啓発
    - ・児童生徒の活動への参加
    - ・ごみを集める習慣づくり
    - ・社会へのリサイクル知識の普及
    - ・各学年から3名ずつ指名され、6学年で合計18名が実行委員として選ばれる。
  - ・附属小学校では、来年1月第3週に1泊2日でキャンプに行くので、日本からも教員5名、児童生徒5名以内で参加する意思はないかと附属小学校から打診。日本側からは、キャンプまでの時間が短いので、今年度は難しそうと回答。
  - ・日本側から、例えば校歌の交換などのような音楽を通じた交流も考えられると示唆。

## 【総括】

- ・今回の教員派遣は、日タイの交流を進めるための基盤作りとして大変有益であった。
- ・チュラロンコーン大学附属小学校と Kochapuek Anusorn 校の視察は、タイで行われている ESD・環境教育について知る良い機会となり、日タイの学校が相互に学びあえることが確認された。
- ・両校における ESD・環境教育への取り組みは多岐にわたり大変優れた内容を含むものであり、日本のモデル校と比べても遜色ないと考えられる。日本の学校も、これらの月校の取り組みから学べる点が多々あると思われる。
- ・チュラロンコーン大学のサポートもあり、両校は、日本との ESD・環境教育に関する交流に前向きな姿勢を示している。
- ・次のステップとして、日本側の教員は学校に戻って、視察結果を踏まえてどのような交流が可能かを検討し、およそ 1 カ月以内に金沢大学鈴木、チュラロンコーン大学アタポン先生を通じて具体的な提案を行うものとする。
- ・チュラロンコーン大学 ESD センターは、既に東京都市大学の佐藤正久教授と新規協力プロジェクトについて調整中。鈴木は、帰国後、チュラロンコーン大学との連携協力研究の可能性につき、佐藤教授と意見交換する。
- ・ユネスコ・バンコク事務所は、日本の ESD に関する様々な情報を入手する良い機会であったと今回の日本からの訪問を高く評価した。また、日本の大学との連携協力事業の可能性につき、積極的な姿勢を見せたことから、ユネスコ・バンコク事務所及び同事務所を通じたアジアの国々との交流について模索する。特に、ユネスコ・バンコク事務所は、ESD 授業実践のための具体的な教員養成に高い関心を有しており、このトピックに関心をアジアの大学につき調査し、金沢大学に連絡する旨合意した。